

## 雌性型白ニガウリ系統「熊育VB04」(育種素材)の育成

本県独自の、ニュータイプ白ニガウリの品種開発に取り組む過程で、雌花のみを着生し、果皮色が純白である、育種素材として有望なニガウリ「熊育VB04」を育成した。

農業研究センター農産園芸研究所野菜研究室(担当者:山並篤史)

## 研究のねらい

ニガウリは近年、一般的な野菜として認知されており、県内においても導入が進み、転換品目、または、組み合わせ品目として面積が増加傾向にある。しかし、流通している果実の大半は濃緑色であり、今後、消費の安定や拡大を図るため白ニガウリに着目したが、市販の白ニガウリは雌花着生率が10%程度と低く、収量性が劣ることが課題となっている。

そこで、将来、多収で果実品質に優れる、実用的な白ニガウリを開発するための育種素材を育成する。

## 研究の成果

新たに育成した雌性型白ニガウリ系統「熊育VB04」は、以下の特性を有する。

1. 花の性表現は、すべて雌花のみであり、白ニガウリとしては他に報告はない。  
また、雌花のみ着生するため、種子親として利用した場合、採種コストを抑えることができる(表1、表2)。
2. 果皮色は純白で、果実の形状は肩がやや張る紡錘型である(表1、表2、図1)。
3. こぶ状突起は、鋭く尖る形状である(表2、図1)。

## 普及上の留意点

1. 育種素材(種子親または中間母本)として活用する。

【具体的データ】

No.486 (平成23年5月) 分類コード01-04 熊本県農林水産部

表1 果皮色の比較 (2009年)

品種・系統	色差計値 <sup>z</sup>			果皮色	備考
	L*値	a*値	b*値		
「熊育VB04」 <sup>y</sup>	55.63	-2.43	12.30	純白	雌性型白ニガウリ系統
沖縄純白ゴーヤー <sup>y</sup>	67.53	-1.94	8.40	純白	慣行品種 (フタバ種苗)
えらぶ <sup>x</sup>	28.19	-7.97	8.83	濃緑	慣行品種 (八江農芸)
KGBP1号 <sup>x</sup>	31.25	-10.43	14.10	濃緑	育成系統の親系統

<sup>z</sup> ミノルタCR-310で測定

L\*値: 明度 100 (白) ~ 0 (黒)、a\*値: + (赤) ~ - (緑)、b\*値: + (黄) ~ - (青)

<sup>y</sup> 果実中央部の3カ所の平均値

<sup>x</sup> 果実中央部の濃緑部と淡緑部の平均値



図1 「熊育VB04」の果実形状 (2009年)

スケールは10cm

表2 果実特性 (2010年)

品種・系統	雌花節率 <sup>x</sup> (%)	果形	肩部	こぶの高さ、形状
「熊育VB04」	100	短い	やや張る	高く、尖る
沖縄純白ゴーヤー	7.7	短い	やや張る	低く、丸い
えらぶ	26.7	やや長い	やや流れる	やや高く、尖る
KGBP1号	100	やや長い	張る	やや低く、やや尖る

<sup>z</sup> 子づる2本仕立て、第30節までの着花節を調査 (3株)